

|                |   |
|----------------|---|
| <b>タイトル</b>    | 平成 27 年度 教育学部入試 前期：生活健康系 共通小論文<br>平成 27 年度 教育学部入試 生活健康系 保健体育専攻<br>推薦入試（小論文・面接） 一般入試：前期（実技）、後期（実技・保健体育）  |
| <b>評価のポイント</b> | <p><b>前期</b><br/> <b>生活健康系 共通小論文</b><br/>         評価の観点<br/>         生活・健康に関する基礎的教養を有しているとともに、論理的な思考展開ができているかを評価する。</p> <p><b>推薦入試</b><br/> <b>生活健康系 保健体育 小論文</b><br/>         評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 設問の内容を理解できたかどうか</li> <li>2 論理的な展開がなされているかどうか</li> <li>3 正しい知見を加えた論述がなされているかどうか</li> <li>4 ふさわしい視点・着眼点で論述されているかどうか</li> </ol> <p>以上の観点より、総合的に評価を行う。</p> <p><b>同上 面接</b><br/>         評価の観点<br/>         以下の点を重視し評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 質問に対する知識・理解を持っているか</li> <li>2 回答は論理的に表現（展開）されているか</li> <li>3 応答の態度は適切か</li> <li>4 教師としての将来性を感じさせるか</li> </ol> <p><b>前期</b><br/> <b>生活健康系 保健体育 実技</b><br/>         評価の観点<br/>         基礎的運動能力およびスポーツに関する能力を評価する。</p> <p><b>後期</b><br/> <b>生活健康系 保健体育 実技</b><br/>         評価の観点<br/>         基礎的運動能力を評価する。</p> <p><b>(次頁へ続く)</b></p> |

|                       |  |
|-----------------------|--|
|                       |  |
| <p><b>評価のポイント</b></p> | <p><b>後期</b><br/> <b>生活健康系 保健体育（筆記試験）</b><br/> <b>解答（及び解答例）</b></p> <p>1 A① キ ② イ ③ チ B④ ト ⑤ ア C⑥ カ<br/> D⑦ コ E⑧ エ</p> <p>2<br/> (1) スポーツにおいて、自己の身体や健康の損傷・破壊をかえりみずに、勝利をえようとしたり、勝利に伴う報酬などを得ようとして、不正に薬物等を利用する行為。<br/> (2) ドーピングが禁止される3つの理由は以下の点である。<br/> ①スポーツにおけるフェアプレー精神に反する行為である。<br/> ②選手の健康を損ね、場合によっては生命をも奪う危険な行為である。<br/> ③薬物の習慣性や青少年への悪影響など社会的な害を及ぼす。<br/> (3) アンチ・ドーピングとは、あらゆるドーピングの防止・禁止を訴え、スポーツの健全な推進を図ろうとする運動のことである。世界組織や各国組織が中心となり、ドーピング防止・禁止のルール・規程の作成やガイドラインづくりをすすめること。また、ドーピング検査の実施、ドーピング禁止に関する普及・啓発活動が行われている。</p> <p>3<br/> (1) ① 運動技術 ② 運動技能 ③ 戦術<br/> (2) ①・対応すべき相手やボールが常に変化するような状況下で発揮される部分技能。<br/> ・状況の変化が著しく、その状況を予測・判断しながら遂行する必要のある運動技能<br/> ②・外的条件に左右されることのない状況で発揮される部分技能。<br/> ・運動を生起させる状況がかなり安定している場面において遂行される運動技能。</p> <p>4 ① 数値目標 ② 健康寿命 ③ 質 ④ アメリカ ⑤ 健康増進法</p> |